

## 4 とかち「食・観・連」推進室の取り組み

### ■ とかち「食・観・連」推進室

十勝総合振興局では、道が重点的に進めているインバウンド対策や、管内観光入込客増などの観光の要素を新たに加えつつ、これまでの食と地域連携を柱とした取り組みを実施していくため、平成28年4月に『とかち「食・観・連」推進室』を設置し、民間企業等と連携した十勝の食・観光の魅力発信や国内及び海外に向けた十勝産食材の販路拡大への取り組みなどのほか、「地域連携」の観点から地域における女性活躍促進の取り組みも進めています。

### ● 平成29年度の主な取り組み内容

#### ① 民間企業等と連携した十勝の食・観光の魅力発信の取り組み

##### ◆「サッポロビール★道産子感謝Day」への参加(7月1～2日)

サッポロビール(株)がサッポロファクトリー会場において開催したピヤガーデンのイベントに参加し、池田町観光協会、池田町、十勝品質事業協同組合、JAネットワーク十勝ブランド戦略推進協議会と連携して、十勝の食・観光のPRを行いました。



##### ◆北海道・十勝の魅力発信プロモーション・観光商談会の開催(9月12日)

東京都内において、十勝観光連盟など管内の観光関係事業者等が参加し、旅行エージェントやメディア関係者に向けて、十勝の観光や食の情報をPRする商談会を実施。また、商談会に平行し、食のPRとして十勝のスイーツ等の試食も行いました。



##### ◆株式会社資生堂社員食堂における十勝の食・観光PR(9月12～15日)

(株)資生堂社員食堂において、豊頃町、JAネットワーク十勝ブランド戦略推進協議会、十勝品質事業協同組合、前田農産食品合資会社と連携し、十勝産食材(エゾシカ肉など)を用いた限定メニュー「新得町産エゾシカのグリルバルサミソース」等を販売していただくとともに、十勝の食・観光のPRを行いました。



##### ◆「北海道フェア in 代々木」への参加(9月28日～10月1日)

東京・代々木公園において開催された屋外型の北海道物産イベントに参加し、十勝品質事業協同組合との協働により、オール十勝産食材のホットドッグに十勝ラクレットモールウォッシュをかけた「ラクレットドッグ」を販売したほか、十勝の観光情報や十勝産牛肉などのPRを行いました。



##### ◆ヤフー株式会社社員食堂における十勝の食・観光PR(2月22日～23日)

ヤフー(株)社員食堂において、東部4町(幕別・池田・豊頃・浦幌)、JAネットワーク十勝ブランド戦略推進協議会、十勝品質事業協同組合、前田農産食品(株)と連携し、十勝産食材(百合根など)を用いた限定メニュー「ゆりねごはん」等を販売していただくとともに、特産品の販売、夜はワイン等の試飲会も実施し、十勝の食・観光やふるさと納税のPRを行いました。



##### ◆学校法人香川栄養学園との包括連携協定の締結(3月8日)

十勝地域の活性化に向けて、食の生産現場における人材育成の推進、十勝産食材の利活用促進、十勝産食材や十勝観光に係る情報発信等の事項について相互に連携・協力しながら協働事業に取り組むこととした包括連携協定を締結しました。



# 4 とかち「食・観・連」推進室の取り組み

## ② 「とかち豚丼振興局」の取り組み

十勝総合振興局では、十勝を代表する郷土料理の「豚丼」をシンボルに位置付け、振興局の名称を「北海道とかち豚丼振興局」に改称するという仮想のもと、十勝の「食や観光」のPRを行っています。

イメージキャラクター「ぶたどんまん」を「北海道とかち豚丼振興局」の係長に任命し、各種イベントに参加するなどしてPRを行ったほか、道庁ブログを通じた観光やイベントの情報発信などを行いました。



ホコテン（食育・木育広場）

## ③ 十勝産食材の魅力発信・販路拡大への取り組み

### ◆首都圏の調理師専門学校における十勝産食材PR(10月2～3日)

東京都内の2法人3校（香川調理製菓、東京調理製菓、東京栄養食糧）において、十勝産食材（小麦粉など計6品目）を提供し、実習授業で活用してもらうなど、将来の料理人となる専門学校の学生に対して、十勝産食材の魅力や生産現場見学に向けた誘客のPRを行いました。



東京調理製菓専門学校でのPR

### ◆中京圏の調理師専門学校における十勝産食材PR(11月30日～12月1日)

名古屋市内の2法人2校（ニチエイ調理、名古屋調理師）において、十勝産食材（十勝若牛など計9品目）を提供し、実習授業で活用してもらうなど、将来の料理人となる専門学校の学生に対して、十勝産食材の魅力や生産現場見学に向けた誘客のPRを行いました。



ニチエイ調理専門学校でのPR

### ◆「雇用環境改善&新たな作り手育成応援セミナー」の開催(12月22日)

首都圏等のバイヤーやシェフなど食の専門家10名を招聘し、管内の食品関連事業者に向けて商品開発や販路拡大を支援するためのセミナーや個別商談会を帯広市内で開催しました。また、生産現場ツアーとして、幕別町の十勝ヒルズ（花や野菜の複合ガーデン施設）をはじめ食品加工施設や畜産関連施設などに各バイヤーを案内し、視察を行いました。



### ◆「食物語を探る企業見学会」の開催(1月16日)

求職中の方を対象にした、管内食品製造業の生産現場を見学する企業見学会を開催しました。見学会では各製造現場の製造工程や従業員の働き方等を見学した他、生産者のこだわりについて伺いました。



### ◆「第31回北海道産品取引商談会(東京会場)」への出展(2月6日)および

### ◆「第13回こだわり食品フェア2018」(幕張メッセ)への出展(2月14～16日)

食に関する国や地域の各種認証制度の認証を得ている管内食関連企業・製品を中心に66社を掲載したカタログ「ごちそう王国 とかち食物語」を制作。東京都及び千葉県・幕張メッセで開催された大型展示商談会に十勝ブースを出展し、十勝産品の販路拡大を目的にカタログを用いて来場したバイヤー等へPRを行うとともに、サンプルの提供やヒアリングを行いました。



こだわり食品フェア2018にて

## ④ 長期滞在・観光入込客増に向けた取り組み

### ◆食に関する研修旅行誘致モニターツアーの実施(8月16～18日、21～23日)

十勝地域の「食」に関する生産現場の見学や体験をしてもらい、食の生産地としての「十勝」の魅力や実情を知っていただくことで、今後、生徒向け研修旅行で来ていただくことを目指したモニターツアーを実施しました。



## 4 とかち「食・観・連」推進室の取り組み

### ◆宮城県仙台市における食・観光プロモーションの実施(10月7～8日)

道東4振興局(十勝・オホーツク・釧路・根室)で連携し、長期滞在型の旅行者が多い道外観光客誘致のため、宮城県仙台市で行われたみちのくYOSAKOIまつりに参加し、北海道・十勝の食・観光に係る情報をPRするプロモーションを実施しました。



### ◆マレーシアにおけるテスト販売等の実施(11月25～26日)

成長の著しいアジアの国や地域を中心とする外国人旅行者の旺盛な観光消費を十勝に取り込むため、外国人旅行者向け商品の開発・改良のためのニーズを把握することを目的としたテスト販売やアンケート調査等をマレーシアクアラルンプールの三井アウトレットパークとケダ州のイベント会場で実施しました。



### ◆富裕層向け長期滞在型観光モニターツアーの実施(1月22～24日)

農業王国十勝の豊富な食と観光資源、近年可能となってきた様々な体験を組み合わせた十勝ならではのプレミアムな冬のモデルコースを造成し、今後、高い経済効果が見込める国内富裕層の十勝地域への誘客促進と周遊・滞在型観光を推進することを目的に、モニターツアーを実施しました。各モニターの方には、ただ見たり食べたりするのではなく、プラスαの体験をし、「十勝の魅力」を感じていただきました。



### ◆SNS等の情報発信事業 体験ツアーの実施(2月1～3日、8～10日)

平成28年8月の台風被害により管内観光客数は落ち込みましたが、各機関の様々なプロモーションの効果もあり、台風被害前の水準まで回復していますが、さらに多くの方にお越しいただくため、とかち観光大使及び雑誌編集長の2名を招へいし、冬の十勝の食や観光を体験して、SNSやブログ等を使って情報発信していただくツアーを実施しました。



## ⑤ 女性の活躍促進に向けた取り組み

### ◆「がんばる女性の交流会」の開催(11月9日)

異業種、異分野、異年齢層の女性交流の場を創出するとともに、先進事例の共有などにより、メンバー相互のレベルアップを図る交流会を開催しました。



### ◆「輝く女性のステップアップセミナー」の開催(2月17日)

十勝の女性が「自分のやりたいこと」を実現でき、イキイキと活躍できるよう、頑張っている・活躍している女性(ロールモデル)の話を聞いて、元気になることができたり、勇気をもらって自信がレベルアップする気持ちになれるようなセミナーを開催しました。



### ◆「企業の女性活躍推進セミナー」の開催(3月13日)

首都圏や札幌などの大都市と比べ、女性が活躍する環境がまだまだ整っておらず、十勝の女性が企業においてより働きやすく能力を発揮するためには、企業の制度や職場環境の整備が必要不可欠であることから、首都圏や管外の企業の先進事例について学ぶセミナーを開催しました。



### ◆女性ロールモデルの発掘・発信

十勝管内で活躍しているキャリアデザインの参考となるような女性を取材し、ロールモデルとして振興局HPで情報発信を行いました。